

船舶滿載吃水線法案委員會會議錄(筆記)(第一回)

委員會成立

本委員ハ大正十年一月二十六日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

坪田 十郎君 岩崎幸治郎君 高橋金治郎君
栗林 五朔君 山本清三郎君 蓮井 藤吉君
上塚 司君 青柳郁次郎君 石井 三郎君
森 恪君 原田藤次郎君 橋本 喜造君
正木 照藏君 鈴木富士彌君 鶴澤 宇八君
齋藤巳三郎君 砂田 重政君 山本 藤助君
同月二十七日午前十時二十分委員長理事互選ノ爲各委員參集ス其ノ氏名左ノ如シ

坪田 十郎君 岩崎幸治郎君 高橋金治郎君
栗林 五朔君 山本清三郎君 蓮井 藤吉君
上塚 司君 青柳郁次郎君 石井 三郎君
森 恪君 齋藤巳三郎君 山本 藤助君

年長者齋藤巳三郎君投票管理者トナル
○投票管理者(齋藤巳三郎君)ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フベキ旨ヲ宣告ス

○栗林五朔君ハ投票ヲ用キズ坪田十郎君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ其ノ數ヲ三名トシ委員長ノ指名ニ一任スベシトノ意見ヲ提出ス
○投票管理者(齋藤巳三郎君)ハ栗林君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ坪田十郎君ハ委員長ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

〔此ノ時投票管理者退席シ坪田十郎君委員長席ニ著ク〕
○委員長(坪田十郎君)ハ岩崎幸治郎君、砂田重政君及山本藤助君ヲ理事ニ指名シ散會ヲ宣告ス

會議

大正十年一月二十八日午前十時五十分開議

出席委員左ノ如シ

坪田 十郎君 岩崎幸治郎君 栗林 五朔君
山本清三郎君 石井 三郎君 森 恪君

橋本 喜造君 正木 照藏君 鶴澤 宇八君
齋藤巳三郎君 砂田 重政君 山本 藤助君
出席國務大臣左ノ如シ
遞信大臣 野田卯太郎君

出席政府委員左ノ如シ
遞信次官 秦 豐助君
遞信省管船局長 若宮 貞夫君
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
遞信技師 山本 幸男君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
船舶滿載吃水線法案
〔以下速記〕
○委員長(坪田十郎君) ソレデヤ、是ヨリ委員會ヲ開キマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 私カラ今一寸大體ヲ本案ノ趣意ハ、既ニ本會ニ於テ述ベテ置キマシタガ、更ニ一通リ申上ゲマス、趣意カラ云ヘバ、極メテ單純ナモノデアリマス、趣意書ニ書イテアル通りノコトデアリマシテ、主眼ハ海難ヲ豫防スルト云フ、造

船ノ計畫ノ基礎ヲ確立スルト云ヒマスケレドモ、是ノ海難ヲ豫防スルニ外ナラヌノデ、既ニ或ルモノハ、檢査シマシテ、所謂此表題ニ在ル如ク滿載吃水線ヲ標ヲ附ケル譯デゴザイマスガ、趣意ハ今申上ゲタ通りデアリマス、ソレカラ正木君ノ御質問モアッタガ、此動機ト云ヒマセウカ、此問題ハ承ハル所ニ依レバ、四十一年カラ、此問題ガ起ツテ、大正六年ニ調査費ノ要求ヲ致シマシテ、省内ニ委員會ヲ設ケテ、數年間調査ヲシタ譯デス、其調査ガ此頃出來マシタカラ此案ヲ提出シタ譯デス、ソレデ大體斯ノ通りデアリマスガ、法ヲ作ッテ見マスレバ、十七箇條カニナッテ居リマスガ、此數箇條ハ、所謂取扱ノ手續ニ外ナリマセヌガ、之ニ就テハ、種々御意見モアラウト思ヒマス、マア私ガ察スルニ百噸ト思ッテ居リマシタガ、百噸以下ノ船ヲ檢査シナイト云フコトガ宜イカ惡イカ、或ハ百噸デハ餘リ密ニナルカラ、此上ニモ繰上グ

ルト云フ御説ガアルカト云フノガ最も重要ナ問題デゴザイマス、私共極ク素人デゴザイマスケレドモ、此沿岸ヲ航海スル小船、即チ橫濱ヨリ東京ノ間、又ハ神戸ヨリ大阪ノ間、私ノ最モ親シク視テ居ル所ハ、若松ヨリ馬關ニ行ク石炭船ノ如キ、又大牟田ヨリ口ノ津ニ通フ船ノ如キハ、過載ノ爲メニ往々沈ムコトガアリマス、橫濱ト東京ノ間ニハ經驗ハアリマセヌガ、神戸ト大阪間ノ如キハ、昔私紡績ニ居ッタコトガアルガ、吾々ノ荷物モ往々沈マセラレタコトモアル、私大體ニ於テ是ハ必要ナ事ト思ヒマス、ドウカ一ツ本案ハ御審議ノ上御賛成ヲ願ヒタウ存ジマス

○橋本喜造君 私ハ遞信大臣ハ船ニハ素人ト思ッテ居ッタ所ガ、只今ノ御話デハ仲々御經驗モアルヤウデ誠ニ玄人デ結構デゴザイマス、第一御尋シタイノハ此吃水線「フリー、ボート」ハ、現在ニ於テモ日本ノ海事協會ガヤッテ居ルヤウデアリシ、又海事協會ナルモノハ遞信省ガ既ニ公ニ許シテアルヤウデアリマス、此海事協會ガ檢査ヲシテ「フリー、ボート」ヲ定メタモノニ對シテ、印度或ハ濠洲ニ參リマス、向フノ官廳ガ之ヲ認メヌノデアリマス、ソレデ今回又ソレヲ新ニ日本政府ガ、ソレデヤイカスト言ッテ勝手ニヤッタ所デ、各國デ之ヲ認メナイ場合ニハ、ドウスルカ、サウナレバ有ッテ無キガ如キコトニナル、政府ハ既ニ各國ト協定ヲ經テ居ルト思ヒマスガ、果シテ協定ガ出來テ居リマスカ否ヤ、ソレヲ伺ヒマス、其次ハ今回ノ「フリー、ボート、ライン」ハ何所ノ國ノ規定ニ依ッテ御探リニナッタノデアリマスカ、英吉利ノ「ロイド」カ或ハ「ビユーローベリタース」カ、或ハ「ブリチッシュ、コーボレーション」ニ依ッタノデアアルカ、或ハ是等ニハ何モ關係ナクシテ、日本政府ガ適宜ニ御定メニナツノデアリマスカ、此二點ヲ伺ヒマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 各國トハ政府ガ何等交渉シテ居ラナイコトハ、本會議ニ於テ御答シタ通りデス、ケレドモ此案ガ、通過シタ上ハ、餘所ノ國トハ交渉スルコトニ努メル積リデス、第二ノ點ハ政府委

員ヨリ申上ゲマス

○秦政府委員 何所ノ規定ニ倣ッタカト云フコトデアリマスガ、是ハ主トシテ英國ノ規則ニ依ル考デゴザイマス、ソレカラ序ニ申上ゲマスガ、此吃水線法ハ爰ニ御覽ニナル通りニ、極ク重要ナ點ヲ規定シタモノデアリマシテ、之ニ基イテ技術規程ガ中ニ重要ナモノデアリマスガ、此技術規程ニ依ッテ吃水線ヲ如何ニシテ決メルカト云フコトガ定マリマスノデ、此技術規程ハ即チ先程大臣ヨリ御話ニナツタ通り、大正六年以來各國ノヲ調ベテ攻究シテ案ガ出來テ居ルノデアリマス、是ガ最モ準備ニ要シタ點デアリマスガ、是ハ此法律ノ發布ニナツタ後ニ、更ニ又民間ノ技術家、或ハ造船ニ關係アル方々ニソレノ攻究ヲシテ戴イテ、之ヲ出サウト云フ考デゴザイマス、而シテ此技術規程ニ依ッテ、各國ニ對シマシテ斯ノ如キ技術規程デ吃水線ヲ定メルノデアルト云フコトニ依ッテ各國ノ互認ヲ求メルト云フ手順ニナル次第デアリマス、是ハ固ヨリ各國ニハ考モアリマセウガ、大體ニ於キマシテハ其技術規程ガ宜シケレバ、各國ガ互認ヲ與ヘルト云フコトハ是ハ論ノ無イ話デ、英吉利ノ如キハ既ニ萬國會議ヲ開イテ協定シタイト云フコトガ、既ニ大正三年ニモアリマシタ、サウ云フヤウナ譯デ是ハ要スルニ技術規程ノ如何ト云フコトガ、互認ノ條件ニナルノデアリマスガ、此拵ヘ方ニ依リマシテ互認ト云フコトハ六ヶセイコトハナイ、又現在御話ノヤウニ帝國海事協會ガ既ニ「ブリチッシュ・コーポレーション」ト協商シマシテ、其帝國海事協會ノ規定ニ依リマシテ定メタモノガ「ブリチッシュ・コーポレーション」デ定メタモノト同ジモノト認メル、而シテ英吉利ノ「ブリチッシュ・コーポレーション」ハ亞米利加ノ協會、ソレカラ、伊太利ノ協會、是等ト聯盟シテ居ルノデアリマス、結局此日本ノ帝國海事協會モ矢張是等ノモノト聯盟シテ居ル譯デアリマスカラ、此規定ニ依リマシテ日本政府ガ帝國海事協會ヲ認定致シマスレバ、此帝國海事協會モ互認的働キガ出來ルト考ヘテ居リマス

○橋本喜造君 大要解リマシタガ、愈々政府ガ各國ト十分ナ協定ヲシテ戴カナケレバ、日本ノ「フリー、

ボート」ガ行ハレヌコトニナルノデアリマスガ、政府ガ各國ト協定シテ必ズ之ヲ準用スルト云フコトヲ、斷言シテ貰ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 餘所ノ國ノ事ヲ今斷言スルト云フコトハ出來マセヌ、是ハ能ク御考下サイ、向フノ様子ヲ見合ハサズニ斷言スルト云フコトハ、甚ダ侮辱シタ話デ、出來ルカモ知レナイガ、或ハ出來ナイカモ知レナイ、ソレハ未來ノ問題デアリマスカラ、政府ニ御信賴下サツテドウカソレダケハ御免下サルコトヲ希望致シマス

○橋本喜造君 野田遞相ハ御話ガ御上手デ、出來ルカ出來ナイカ分ラナイト云フ御話デアリマスガ、若シ出來ナイト云フコトデアラナラバ、日本内地ナラバ結構デスガ、外國ニ往ツタトキハ何ンモナラナイ、サウスルト日本船舶ハ二重ノ手數ヲ要シマスガ、ソレデモ差支ナイト云フ御心持デアリマスガ

○國務大臣(野田卯太郎君) 互認ノ出來ルヤウニ大ニ努メマスガ、是ヨリ以上ノコトハ、國內ノ事ナラバ、兎モ角モデスガ、外國ノ事ハ斷言ハ出來ナイコトハ、橋本君御承知ノ通りデアリマスカラ、ドウカ難問ハ御許シテ願ヒマス

○橋本喜造君 ソレデハソレ以上ハ申シマセヌ——私ノ質問ハ終リト致シマス

○正木照藏君 成程遞信大臣ノ仰シヤル通り、外國ノ事ハ斷言ハムツカシイト思ヒマスガ、内交渉ヲ御遣リニナツタコトハナイノデスカ、十條十一條ノ規定ノコトハ、向フノ船ニ對シテ一々ナルコトナレバ、大變ナコトニナリマスカラ、豫メ向フノ意嚮ヲ御聽ニナツタコトガアリマスナラバ、ソレヲ承ルコトガ出來レバ安心致シマス

○國務大臣(野田卯太郎君) 私ノ就任以來サウ云フ事ハシテ居リマセヌガ、局長ハ古イ局長デスカラ……○若宮政府委員 公式ノ内交渉ノアリマセヌコトハ、遞信大臣カラ御答シタ通りデアリマス、私モ當初カラ携ツタ譯デアリマセヌガ、先輩カラ承ッテ居リ、且ハ此處ニ專門技術家モ出席シテ居ラレマスノデ、ソレ等ノ關係カラ私ノ承知シテ居ルコトヲ、腹藏ナク申上ゲテ差支ナカラウト思ヒマスガ、明治四十一

年ト記憶致シマス、英國政府カラ英國ノ滿載吃水線法中一部分ノ改正ヲ加ヘル積デアルガ、此改正法ハ外國ノ船舶ニ對シテモ、之ヲ強制スルコトニナルノデアルカラ、之ヲ實施シテ行ク上ニ就イテハ、各國ノ御援助ヲ求メナケレバナラヌ、何分宜シク頼ム、尙ホ斯ウ云フ趣意ニ附加ヘマシテ、若シ日本ニ於テモ同様に法規ヲ作ラル、コトナラバ、相當ノ援助ハ惜マヌ積リデアルト云フ意味ノ話合ガアリマシタ、之ニ對シテ我國デモ早晚行ハナケレバナラヌ狀勢ハ御承知ノ通りデアリマスカラ、ソコデ遞信省トシテハ、專門ノ技術家ヲ見學ノ爲メニ先方ニ派遣スルコトニ議ガ極リマシテ、此處ニ出席シテ居ラル、山本技師ガ其選ニ當ツテ、英國ノ商務院ニ參ッテ、半年餘モ實際ノ狀況ヲ調査シ、且ツ其事務ヲ見習ツテ居ラレマシタ、爾來引續キ當該ノ官吏ガ先方ニ出張ノ都度、常ニ商務院ト聯絡ヲ取ツテ居ルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、又最近萬國商事會議ガ開カル、コトニナツテ、之ニ出席セラレタル人カラモ内ニ話合モアリマスノミナラズ、商事會議ノ方デハ、各國ノ間ニ成ルベク統一シタル規程ヲ設ケテ、雙方ノ聯絡ヲ圖ルト云フ建議ガ昨年成立シテ居リマシテ、公式ニハ別ニ手續ヲ致シテ居リマセヌケレドモ、雙方ノ當局者間ニ相當意思ノ聯絡ハ常ニ取リツ、アルノデアリマス、尙ホ御參考迄ニ、申シマスガ、先刻橋本君カラモ御心配ニナツテ居リマシタガ、若シ外國ガ認メナケレバ困ルデハナイカト云フ御懸念ハ御尤ト思ヒマスガ、我國ニハ滿載吃水線法ガナイ、現狀ニ於テハ矢張諸外國殊ニ英國ノ強制ヲ受ケテ居リマスノデ、我國デ此法律ヲ作リマセヌト、互認ニ就テ當方ノ基礎ガナイ次第デアリマス、又互認ガ出來ナイトキハ、日本ノ船舶ハ重複シテコナラノ檢定モ受ケ、英吉利ニ參タトキニハ「ロイド」或ハ商務院ノ檢定ヲ受ケナケレバナラヌト云フ、御懸念モアルヤウデスガ、是ハ事實ノ上デハサウ云フコトハアリマセヌ、之ニ關係ノ箇條ハ、本案ノ第九條、第十六條デアリマシテ、我國ノ船舶所有者ハ主務大臣ガ認定シタル内外船級協會ノ檢定ヲ、本邦ニ於テモ認ムル趣意ニナツテ居リマスカラ、實際不便ハナイ積リデアリマス

○正木照藏君 此御取調ハ今承リマスルト、隨分長イ間ノ事デ、漸ク此頃ニ至ッテ出來マシタカラ、此度提案サレタト云フ大臣ノ御話デアリマスガ、サウシマスルト、先ヅ第一ニ之ヲ指定スル所ノ規程ガ定マツテ居ラナケレバナラヌガ、——調査會ノ結果トシテ、既ニ定マツテ居ラナケレバナラヌモノト思フガ、今次官ニ承リマスルト、是ハ未定デアアル、本來ハ此提案ニ御添ヘ下サツタ、斯ウ云フコトニヤルノダト云フコトガ分ラナイト、今ノ御話デハ未定ト云フコトデアリマスガ、ソレハドウ云フコトニナツテ居リマスカ

○秦政府委員 是ハ御承知ノ通り、日本ノ船舶ニ關スル法制ハ、總テサウナツテ居リマスガ、例ヘバ船舶検査法ニ於テモ、主務大臣ガ法律ニ依ッテ其權能ヲ持ッテ居ル、サウシテ必要ナル規程ハ、主務大臣之ヲ定ムト云フコトニ、此法案ニ於テモ第八條ニアリマスガ、其規程ハ主務大臣ガ之ヲ定ムルコトニ法律ニ權能ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ之ニ就テ必要ナル規程ハ、既ニ案ハ出來テ居ルノデアリマスガ、此法律ガ出來タ後ニ、更ニ十分ニ審議致シマシテ、之ヲ發表スル順序ニ相成ル次第デアリマス

○正木照藏君 何レソレハ技術上ニ互ルモノデ、私共素人ガ見マシテモ、實際ハ分リ惡イデアリマセウガ、一面ニ於テハ之ガ爲メニ、相當ニ金ガ掛カル、ソレデ繼續事業トシテ豫算ニ出テ居ルト云フコトデアリマスカラ、吃水指定ニ關スル規程ノ草案デモ宜シウゴザイマスガ、御廻シテ願イタイ、ソレガ一番根本デアリマス、ソレヲ拜見致シマセウト、一寸ドウ云フ遣方ニナツテ居ルカ、見テモ分ラヌカモ知レマセウケレドモ、兎ニ角御廻シテ願フノガ相當ノ順序カト斯ウ考ヘマス

○逕信大臣(野田卯太郎君) 草案トシテ御廻シスルコトニ致シマセウ

○正木照藏君 山本技師ガ御取調ニナツタト云フコトデアリマスカラ、ソレヲ一應承リタイト思ヒマスガ

○委員長(坪田十郎君) 正木君カラ御話ノ逕信技師ガ外國ニ行ッテ御調ベノ事情ヲ承ル必要ガアラウト思ヒマスガ、宜シウゴザイマセウナ

○栗林五朗君 山本技師ニ御説明ヲ願ヒマス、序ニ英國ノ「ロイド」ノ規程ト、本法ニ依ッテ規定セラレル吃水線ノ指定セラレル程度トガ、如何ナル差ガアリマスルカ、同一ノモノデアラナラバ、何等差支ナイト思ヒマスケレドモ、差支ガアリマスルカドウカ、ソレカラ又英國ノ「ロイド」許リデナク、米國ニ於テ規程セラレ、モノ、其他各國ノ規程ヲ參考ニ只今御廻シニナツテ居リマスガ、一々拜見スル暇モアリマセウカラ、是等ノ規程ト、ドレ程ノ差異ガアルカ、其等モ山本技師ノ御説明ニ加ヘテ承リタイト存ジマス

○委員長(坪田十郎君) ソレデハ山本技師ノ御取調ノ事情ノ報告ヲ聽クコトニ致シマス

(速記中止)

○委員長(坪田十郎君) 速記ヲ致シマス

○砂田重政君 私モ二三點伺ヒマス、本會議ノ際及本日ノ大臣ノ御説明ニ依リマス、ト、「フリーボート」マーク「ラ」定メテ船舶ノ過載ヲ避ケル様ニシタイト云フヤウナ、目的ノヤウニ御話ガアリマス、此點ハ、頗ル御尤デアリマスガ、私共ノ經驗上、其以外ニ尙ホ滿載吃水線ヲ定メルト云フコトハ、船ノ所謂デッドウェイト「ラ」定メマス上ニ於テ、非常ニ必要ガアル、現在ニ於キマシテハ、此規程ノナイ爲メニ日本ノ船ノ重量積載噸數ノ上デハ、殆ド船舶界ノ景況ノ好、不況ノ際ニハ必ズ紛爭ヲ起ス、其紛爭ガ起ル都度、其規程ノ必要ヲ感ジツ、アル爲メデアリマスカラ、現在日本ニ於テ此法律中ニモ認メラレテ居リマスル船級協會ニ於テ指定シタル滿載吃水線ト云フモノハ、日本内地ニ於テハ、多少信任ガアリマスガ、一度外ニ出タ場合ニハ、殆ド是ハ認メラレテ居ラス、其認メラレテ居ラス船級協會ノ検査シタル滿載吃水線證書ト云フモノヲ、此法律ニ依ルト矢張御認メニナツテ居リマス、サウスルト外國ニ於テ認メラレテ居ラス、又船級協會ノ吃水線證書ヲ此法律ニ依ッテ、御認メニナルト云フコトニ致シマスレバ、是カラ先ニ此法律ノ發布サレタ曉ニ於テハ、矢張外國ニ於テハ此法律ニ依ル吃水線ト云フモノヲ認メナイコトニナリハシナイカト思ヒマス、新ニ此法律ニ於テ、總テノ船舶ニ對シテ、吃水線ノ検査ヲ爲シ、吃水線證書ヲ交付スルト云

フコトナラバ、認メラレルヤウニナルカ知レナイ、今日マデ認メラレテ居ナイモノヲ、——此法律ノ第九條ニ依リマス、ト明カニナル、即チ第四條ニ依ッテ「滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示シタル船舶ニハ、船舶滿載吃水線證書ヲ交付ス」ソレカラ第九條ハ、主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ、本法及本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタル時ハ、其證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス」ト云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ尙第十條ニモ「認定シタル船級協會」云々ト云フ條項ガアリマス、斯ウ云フ規程ヲ設ケラレテモ、當局者ニ於テハ、尙ホ萬國ノ承認ヲ受ケ得ラル、モノト云フ考ガアルカ、其邊ノ御確信ヲ持ッテ御造リニナツタモノデアリマセウカ、第一ニ其點ヲ伺ヒマス

○若宮政府委員 結論カラ先ヅ簡單ニ申上ゲマス、ト云フト、御懸念ノ廉ハ、大丈夫承認ヲ受ケ得ラルト云フ見込デ編纂致シマシタノデゴザイマス、其理由ヲ申上ゲマスルト云フト、仰セノ通り、此第九條ニ於キマシテ、主務大臣ノ認定シタル船級協會ガ此法律ニ依ル所ノ規程ニ基キ指定ヲ致シタルモノハ、之ヲ認ムルト云フコトニ致シテ居リマスガ、此第九條ノ趣意ハ本法施行後ニ於テ、本法ニ依ッテ指定ヲ致シタモノヲ意味致シテ居ルノデゴザイマシテ、第九條ニ依ッテ承認致シマスルニ就テハ、只今ノ御懸念ノ件ハ先ヅ無イ積リデゴザイマス、ソレカラ殘ッテ問題ニナリマス、ハ、附則ノ第十六條ノ方ノ箇條デゴザイマスガ、是ハ此法律ヲ施行致シマスル際ニ、船級協會ノ吃水證書ヲ持ッテ居ルモノヲ認メヤウト云フ趣意デアリマシテ、本法ガ施行セラレマス途端ニ、運輸ニ困ル所ノ船舶ガ出來ルノヲ、是デ防イデ居ル次第、斯ウ云フ趣意ニ外ナラヌノデゴザイマスカラシテ、此十六條ノ實際ノ運用ト致シマス、若シ船級協會ガ附シテ居ル所ノ滿載吃水線ガ、本法及本法ニ基キ發布セラレ、所ノ規程ニ適合セザルモノガアリマスレバ、是ハ本法ノ原則ニ立戻リマシテ、更ニ再檢定ナリ再指定ナリヲ致ス積リナノデス、十六條ハ唯經過ニ關スル規程ノミデゴザイマスルカラ、自

然實際ニ於テハ何等差支ガ起リマセズ、其結果ト致シテ外國ニ承認ヲ求メマス上ニ就テハ、引括メテ本法ノ威力ノ下ニ發給シタル證書ト云フコトニナリマス。實際御懸念ノヤウナコトハ無イ積リデゴザイマス。

○砂田重政君 更ニモウ一ツ御尋ネ致シタイ、屢々外國デ問題ノ起リマスノハ、日本ノ船ガ日本ノ「フリーボート」マークヲ附ケテ、海難ノアリマシタ際ニ問題ガ起ル、其場合ニ「ロイド」ノ鑑定ガ常ニ斯ウ云フコトニナルノデアリマス、日本ノ船舶ガ例ヘバ日本ノ海事協會ノ検査ヲ受ケタノハ何年前デアル、併シ今日ニ於テハ此「フリーボート」マークニ依ッテハ認メルコトガ出來ナイノヲ積込デアッタト云フヤウナコトデ、常ニ日本ノ船ニ不利益ヲ及ボシテ居ル、此法律ニ依リマシテモ、矢張「フリーボート」マークハ一回ダケ御附ニナレバ、後ハ殆ド検査モ何モ無イヤウニ思ハレマスガ、其邊ハ一回ダケデ、後ハ定期検査ナドノ際ニハ「フリーボート」マークニ就テハ一切關係ヲナサラヌ積リデアリマセウカ、或ハ時々検査ヲナサラウト云、御方針デアリマセウカ。

○若宮政府委員 ソレハ時々ト申スコトデハアリマセスガ、第二條ノ規定ニ依リマシテ、必要ガ生ジマシタトキニハ再検査ヲ繰返シ致ス趣意デアリマス。

○砂田重政君 二條ノ何處デスカ。

○若宮政府委員 二條ハ概括的ノ書方デアリマシテ「滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受クベシ」此二條ニ「初メテ」ト書キマシタルデスカラ、ソコデ初メテデナイ場合ニ検査ヲ受ケルト云フ場合ガ、初メテ「ダケト」書イテ置キマスノ漏レマスカラ、ソコデ只今申上デタヤウナ再検査ヲ要スルト云フヤウナ場合ハ、特ニ主務大臣ガ之ヲ別ニ定メル 斯ウ云フ趣意ニナリマス、モット具體的ニ申上ゲマス、只今仰セノ通りニ、事實問題ト致シテ船ガ衰弱ヲ致シテ往ケバ、滿載吃水線ハ幾分ヅ、變更ヲ生ゼヌケレバナラヌ理窟デゴザイマス、ソコデ自然ノ衰弱ノ結果再検査ヲセヌケレバナラヌト認メルトキニハ、其都度

再検査ヲ致シマス、又特ニ構造上ノ變更ガアリ、大修繕ガアルト云フヤウナ結果トシテ、自然重量噸ノ動キヲ生ジ、隨テ滿載吃水線ノ變更ヲ生ズルト云フトキニ於テモ、矢張再検査ヲ致スコトニナッテ居リマス。

○砂田重政君 サウ致シマス。此規程ニ依ルト、初メノ第一回ノ検査ヲ受ケナイ場合ニハ、相當ノ罰ガアル譯デアリマスガ、此外ニハ何等ノ制裁モ無イ、別ニ其點ハ此法律ノ規定ノ中ニ一項ヲ加ヘル必要ハナイノデアリマセウカ、其規定ガアリマセスト、初メニ一回受ケテ置ケバ、其後ニ於テハ假令實際ノ滿載吃水線ガ政府ノ認定サレタ點ヨリ變テ來タ場合ニ於テモ、此法律ニ依ルト再検査ヲ受ケナイデモ差支ナイヤウニ認メラレマスガ、其點ハ如何ナ御考デアリマセウカ。

○若宮政府委員 其點ノ制裁ニ就キマシテハ、第十二條ニ包含致シテ居ル積リデ居リマス、即チ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ又ハ航行セムトシタルトキハ何ノ罰金ニ處ス、斯ウ云フノデゴザイマシテ、凡ソ一ツノ船舶ハ若シ其船舶ガ本法ノ範圍内ニ立入りマシテ、滿載吃水線ヲ附サナケレバナラヌト云フコトニナリマスレバ、詰リ其有スル所ノ滿載吃水線ヲ超エテハ航行スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、ソレカラ御尋ノ點ニ立戻リマスト、先程申上ゲマシタル第二條ノ規定ニ基キマシテ、主務大臣ガソレハ「検査ヲ受クベキ場合ヲ定メマス」デゴザイマスカラ、其主務大臣ノ定ムル所ノ検査ヲ受クベキ場合ニ、検査ヲ受ケテ居ラナクバ、ソレハ實況ニ依ッテ異ッテ參リマスガ、或ハ滿載吃水線無シニ航行シタルト云フコトニモナリ、又或ハ滿載吃水線ヲ超エテ航行シタルト云フコトニモナリマスカラ、第十二條ニ立戻リマシテ、矢張制裁ヲ有スルコトニナル積リデ居リマス。

○山本藤助君 本案ニ就テ御尋シヤウト思ヒマシタ重要ナ事項ハ、前諸君カラ皆御尋ニナリマシテ、略々満足ニ了解致シマシタガ、此本案ノ各條ニ「主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外」トアリマスガ、是ハドウ云フ場合ヲ指スノデアリマスガ、ソレカラ續イ

テ是ハ少シ手續ニ互ルヤウデアリマスガ、是マデ「ロイド」ノ吃水線證書ハ、詰リ検査ヲ受ケル場合、必ズ定期検査ノ際ニ共ニソレヲ検査シテ貫ッテ證書ヲ受ケルト云フコトガ、主ナ場合ニナッテ居リマスガ、此法律ガ施行サレマス、各地ヲ航行シテ居ル船ガ、最近ノ検査所ノ在ル場所ニ集ッテ、此検査ヲ受ケナケレバナラヌモノデアルカ、或ハ次ノ検査期日マデ、此法案ガ制定サレテモ次ノ検査ノ時マデ、此検査ヲ受ケナイイモノデアリマスガ、ソレモ併セテ御尋シマス、尙ホソレカラ從來「ロイド」トカ「ベリタス」トカノ吃水線證書ヲ受ケテ居ルモノハ、其證書ヲ添エテ船舶局ニデモ届出スレバ、ソレデ宜シイ手續ニナリマスガ、ソレモ併セテ御尋シテ置キタイト思ヒマス。

○若宮政府委員 第一ノ主務大臣ノ定ムル場合ト云フ事ニ就テ御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス、各條デモアリマセスガ、大分箇條ガ多イコトデゴザイマスガ、若シ漏レマシタラ御注意ヲ願ヒマス、先ヅ第一ニ現レテ參リマスルノガ、第二條ニ「主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外」ト云フコトガゴザイマスガ、此第二條ノ特例ノ場合ハ、先程モ一寸申上ゲマシタ再指定ヲ受ケルト云フ場合トカ、或ハ一番主トシテ、茲ニ特例トシテ見テ居リマスノハ、自然此検査ヲ致シマスル所ノ場所ハ、検査執行地ニ於テ執行致ス積リデゴザイマスカラシテ、此検査執行地以外ニ於テ製造セラレ、又ハ検査執行地以外ニ於テ、新ニ日本船舶トシテ取得セラレル船舶ガ屢々出テ參リマスルカラ、之ヲ適當ナル検査執行地マデ廻航スルト云フヤウナ場合ニ於テハ、本法ヲ適用スルコトガ無理ニナルノデ、是等ノ場合ニ對應致シマス爲メニ、茲ニ特ニ主務大臣ノ定ムル場合ト云フノヲ除外致シテ居ルノデゴザイマス、次ニハ第三條デゴザイマス、此第三條ハ管轄ヲ定メテ居ル規定デアリマシテ、原則ト致シマシテハ其船ガ居リマスル所ノ土地ヲ管轄シテ居ル管海官廳ニ於テ之ヲ掌ルト云フコトニナッテ居リマスガ、併ナガラ必要ナル場合ニ於キマシテハ、或ハ植民地ニ於テ、或ハ外國ニ於テ此検査ヲ致サナケレバナラヌト云フコトモ、起キテ參ラウカト云フコ

トモ考ヘナケレバナリマセヌデ、是等ノ場合ニ便法ヲ開キマス爲メニ、特ニ定ムル場合ト云フノヲ除外シテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ次ハ第五條デゴザイマスガ、第五條ハ滿載吃水線ヲ定メマシタ所ノ船舶ハ、勿論之ヲ超エテ荷積ヲスルコトガ出來ナイト云フコトモ定メテ居ルノデアリマスケレドモ、是トモ或ル特別ノ場合ニ於キマシテハ、之ヲ許サナケレバナラヌ場合ガ生ジテ參リマス、其一例ヲ申上ゲマスルト云フト、大體ニ本案ノ趣意ハ、外海ヲ航行致シマスルト云フニ之ヲ制限スル趣意ニナツテ居リマスノニ、外海ニ出ル船ガ河ノ中デアリマスツカ、又ハ内海ヲ繼續的ニ航行シテ居ル場合ガ想像サレルノデアリマシテ、其時ニ――甚ダ細カイ事ヲ申上ゲルヤウデスガ、港ヲ發港致シマシテ、淡水ナリ又ハ鹹水デアリマシテモ内海ヲ航行致シテ居ルト云フトキニ其危クナイ部分ヲ航行スルノニ必要ナル所ノ石炭ナリ水ナリト云フモノハ、外海ニ於ケル吃水ヨリハ餘計積ンデ居リマシテ、實際危害ガ無イト云フコトガ起キテ參リマス、誠ニ細カイ事デ説明ヲ申上ゲルノニ諄クナリマスガ、例ヘバ或ル港ヲ發港致シマシテ、内海ヲ百哩歩イテ、ソレカラ百哩行クト外海ニ出ルト云フ場合ニ於キマシテ、其百哩間ニ費ス所ノ石炭ナリ水ナリト云フモノハ、外海ノ吃水ヨリモ餘計ニ積ンデ居ツテモ、實際害ガ無イトデゴザイマス、斯ウ云フモノハ吃水線以上ニ積ムコトヲ許シタイト斯ウ云フコトデ、此特別ノ場合ヲ置イテデゴザイマス、其次ハ十二條ニ特別ノ場合ガアリマスガ、是ハ第二條ニ就テ御説明ヲ申上ゲマシタ通りニ、或ハ検査施行地外ニ於テ製造シタルモノ、或ハ検査施行地外ニ於テ新ニ日本船舶トシテ取得セラレタト云フヤウナ際ニ、此船舶ヲ検査施行地ニ廻航ラシテ、検査ヲ受ケル場合トカ、或ハ又日本ノ港ニ這入ル豫定ヲ有シテ居ナイ外國船ガアリマシテ、ソレガ炭水ノ缺乏、何カノ海難トカ云フヤウナ爲メニ日本ノ港ニ駛込ムト云フヤウナコトガデゴザイマス、斯ウ云フヤウナトキニハ、之ヲ別段検査致ス必要ヲ認メマセヌデ、是等ハ罰則カラモ除外シテ置キタイ、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、大體例外ニ關スル規定ハソレダケデ

ゴザイマス、ソレカラ次ニ御尋ノ如何ナル場合ニ檢定ヲ行フカト斯ウ御尋デアツカト思ヒマスガ、ソレハ各船直チニ本法ノ施行ト同時ニ之ヲ行ヒマスコトハ、洵ニ船主ニ取ツテ迷惑ナコトデモアリ、之ヲ掌ル上カラモ實際不可能デゴザイマス、出來ナイノデゴザイマス、ソレデ定期検査ニ當リマシタトキ、定期検査ト併セテ檢定ヲ行ヒタイト斯様ニ考ヘテ居リマス、左様致シマス船舶所有者ノ方デモ、同時ニ定期検査ヲ受ケルノデアリマスカラ、多クノ手間ヲ取リマセヌデ、便宜デアラウト斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ検査ヲ致シマス場所デゴザイマスガ、此場所ハ只今考ヘテ居リマスノハ、船舶検査ヲ執行致ス所ノ場所デハ、之ヲ行ヒタイト思ツテ居リマス、即チ内地デ確カ百十三箇所程ノ執行地ガアリマシテ、主ナル場所ニハ皆ゴザイマスシ、尙ホソレデ足りマセヌ場合ハ、臨時執行地モ設ケマスシ、又船主ノ希望ニ依ツテハ検査官吏ガ特ニ出張シテ検査ヲスル積リニ致シテ居リマス、一寸山本サニ御尋ヲ致シマスガ、第二ノ御質問ハ何デゴザイマシタカ、外國ノ船級協會ノ證書ヲ受ケテ居ル所ノモノガ、本法施行ノ際ニドウ云フ手續ヲスレバ好イカト云フ御尋デアリマシタノデスカ

○山本藤助君 サウデス

○若宮政府委員 ソレハ第十六條ノ規定ニ依リマシテ、届出ラシテ貰ヘバ、ソレデ宜シイ積リデゴザイマ

○山本藤助君 只今ノ二番目ニ御尋シマシタコトニ就テ、御説明ヲ得マシタガ、サウスルト定期検査ヲ假ニ今月行ヘバ、此法令ガ來月發布サレマシタナラバ、次ノ年ノ今月マデハ此規程ヲ適用セズシテ證書ヲ受ケナクテモ好イト云フコトニナルノデアリマスカ

○若宮政府委員 其通りニ考ヘテ居リマス

○砂田重政君 一寸モウ一ツ伺ツテ置キマス、是ハ船舶検査法ノ適用ヲ受ケナイ第一條記載以外ノ船デスカソレニモ適用サレルノデスカ

○若宮政府委員 一寸

○砂田重政君 例ヘバ横濱トカ神戸ニ在リマス船デアリマス、船ト云フモノハ殆ド船舶検査法ノ適用ヲ

受ケテ居リマセヌ、サウ云フ船ニハ矢張此規程ヲ適用サレルノデアリマスカ

○若宮政府委員 検査法ノ適用ヲ受ケマセヌ船ニハ、全然適用セヌ積リデアリマス

○正木照藏君 是ハ此施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアリマスガ、何時カラ御遣リニナル御考デアルカト云フコトヲ伺ヒタイ、モウ一ツハ豫算トノ關係ガドウナツテ居リマスガ、一寸今記憶致シマセヌガ、何デモ六箇年度ノ繼續事業トナツテ居ルヤウニ思ツテ居リマス、ソレハドウ云フコトニナツテ居リマスガ、ドウ云フ爲メニ金ガ要ルノデアリマス、年々幾ラ宛金ガ要ツテ、ドウ云フコトニナツテ居ルカ承リタイ

○若宮政府委員 第一ノ御尋ハ取急ギマスカラシテ、精々早く來年度内ニ於テ施行致シタイ、準備ノ成リ次第早ク施行シタイ考デ居リマス、ソレカラ第二ノ御尋デハ別ニ豫算書ノ方ニ掲ゲテデゴザイマスガ、大正十年度ニ於キマシテ六萬八千餘圓ノ豫算ヲ要求シテ居リマス、是ハ繼續費ニナツテ居リマセヌノデゴザイマス、年々要求シテ頂戴致シタイ思ツテ居リマス、而シテ本法施行ノ順序ニ就キマシテ豫定シテ居リマス所ハ、先ヅ以テ遠洋航路ノ船舶、竝ニ總噸數五百噸以上ノ近海航路ノ船舶カラ實施致シマシテ、遠洋航路ノ船舶總噸數五百噸以上ノ近海航路ノ船舶ヲ、凡ソ三年間ニ仕上ゲタイ、斯様ニ豫定致シテ居リマス、ソレヲ終リマシタ上デ總噸數五百噸以外ノ船ニ及ボシタイ、左様ニ豫定致シテ居リマス

○正木照藏君 サウ致シマス、年々凡ソ六萬圓宛先ヅ三箇年人用デアアル、ソレカラ先ハ餘リ金ガ要ラヌ、斯様ナ形ニナリマスガ、又六萬八千圓ト申ス數字ハ何處カラ出テ來タノデス

○若宮政府委員 逆デゴザイマスガ、六萬八千圓ノ計算ノ基礎ハ何レカラ出タカト云フ方カラ御答致シマスガ、ソレハ只今申上ゲマシタヤウニ、遠洋航海船舶竝ニ五百噸以上ノ近海航路ノ船舶ヲ、約三箇年間ニ之ヲ仕上ゲマス、ト云フコトヲ基礎ニ致シマシテ、ソレヲ爲スノニ就テ必要ナ人員竝ニ其他ノ經費ト云フモノヲ見積ツタノガ、六萬八千餘圓ノ金デゴザイマス、ソレカラ其三年間ヲヤリ、其後ノ經費ニ就テ

ハ只今マダ見積ツテ居リマセヌガ、是ヨリモ少イ金額
デ爲シ得ル積リデ居リマス

○橋本喜造君 吃水線ノ第一回ノ検査ヲ受ケルモノ
ハ、向フ三箇年間ニ於テ殆ドヤリ上ゲタイト云フ管
船局長ノ御話デアッタヤウニ思ヒマス、然ルニ近來日
本ノ船舶ノ航海ガ餘程發達致シマシテ、外國ニ行ッ
タ切リ三年四年五年ト歸ッテ來ナイ船ガ往々アルノデ
アリマス、外國ニ行ッテ居ル船ハ、日本ノ検査ヲ受ケ
ナクテモ宜イ規定ニナッテ居リマスガ、サウスルト滿
載吃水線ニテモ、日本ニ歸ッテ來ル迄ハ受ケナイデ
宜イモノト本員ハ了解致シマスガ、ソレニ違ヒアリ
マセヌカ

○若宮政府委員 私共御了解ノ通りト考ヘテ居リマ
ス

○委員長(坪田十郎君) 御問ハドウデゴザイマセ
ウ、モウ略々終了シタモノト思ヒマスガ、如何デゴザ
イマス

○正木照藏君 マダ規程ヤ色々書類ヲ拜見シマセヌ
ト、サウ行キマセヌカラモウ少シ……

○委員長(坪田十郎君) ソレデヤ今日ハ是デ散會致
シマス

午前十一時五十七分散會